

「伝統的安全保障リスク」研究会

1～2年目の有事シミュレーションを通じて得た知見を活かし、最終年では日本にとって想定される好ましくないシナリオとして、**中国による台湾支配と北朝鮮によるさらなる核戦力増強を分析した**。また、**トランプ政権がアジアへの関与を続けるかどうかが見通せないこともふまえ**、日本が取るべき政策を検討した。報告書では、**日本がアメリカおよび地域諸国にとって代えがたい存在としての価値を高める戦略をとること、中国を抑止するためにアメリカが全面戦争のリスクを避けて現状変更を黙認する事態を防ぐため、日米の運用能力と一体性を抜本的に強化すること、日韓の国益が軽視された「米朝ディール」を回避し、実効的な非核化と抑止を維持するための枠組みを構築すること**を提言した。

「中国と海洋権益・海洋秩序」研究会

1～2年目の調査研究結果をベースに、最終年としてのアウトプットに特に注力して取り組み、議論を重ねた。最終的には、2026年3月11日に**公開セミナー「中国海洋戦略の現在地点」と題する対面での最終報告会を実施して政策的含意を含む成果を公表した**。中国が海底ケーブルを含む情報通信インフラを通じて構造的権力を行使し、南シナ海では、許認可・国内法・環境評価を通じて国際通信インフラの「選択肢」を制度的に制限している実態や、中国が台湾や日本の周辺海域で複数期間に漁船を大規模動員し、隊列訓練を行っているというデータを公表するなどし、**中国の海洋行動が新たなフェーズに入っていることの警鐘を鳴らした**。

「朝鮮半島情勢とリスク」研究会（※「北朝鮮核・ミサイルリスク部会」「韓国内政・外交部会」の2部会で研究会を構成）

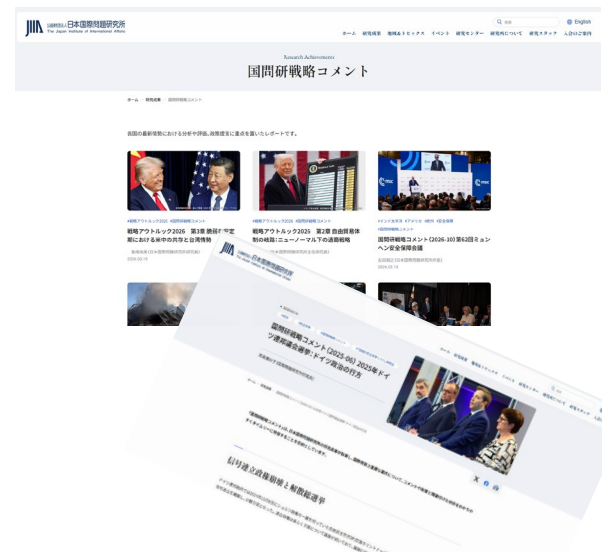
ロシアへの派兵（ウクライナ侵略への関与）を通じて物資・技術と制裁の「抜け穴」を得たことで北朝鮮の核・ミサイル開発がさらに加速したことを検証。その裏面において核軍拡競争をも辞さない姿勢が打ち出され、今や通常兵力の現代化も含めた軍拡が進んでいること、それにもなっってリソースの配分（核・軍事・経済）の偏差が表面化していることを明らかにした。また韓国では出直し大統領選を経て発足した新政権が（当初の観測とは異なり）「現実主義」の名称下で対日関係の維持強化を図るようになった背景を国際環境・内政・経済状況から考察し、良好な日韓関係の背後にある懸念要因（要留意点）の抽出を行った（両部会で政策提言、「北朝鮮」部会では最終報告書を作成）。

【その他】追加措置（事業効果のさらなる向上に向けた工夫）

- ・発展型総合事業に相応しく、共通の問題意識の下での各研究会の独立的かつ相互連関的な運用・当研究所のネットワークを最大限活用した情報収集と対外発信・成果物の産出および発信チャンネルの多様化・人材育成という「パッケージ化」を研究所全体の機構改編（発信機能のさらなる強化）と合わせて実施。
- ・これにより、特に最終年度（3年目）の各タスクをより目的意識的に遂行し、さらに研究会間での知見の共有もさらに円滑化することが可能に。また本事業の全過程をふまえた最終成果物（各研究会の政策提言／最終報告書）の取りまとめもすべて予定通りに遂行したほか、これらを遂行する過程で当研究所としての事業実施能力（含・人材育成成果）も着実な向上を見た。

《成果②》
機動的かつタイム
リーな対外発信

令和7年度 発展型総合事業 「アジア・大洋州地域における安全保障上のリスクの実態」



『国際問題』
朝鮮半島情勢・日
韓関係、台湾問題
など関心の高い事
項を特集し、レベ
ルの高い論考と
ウェビナーで発信

「研究レポート」
尖閣諸島問題などを冷
静に、分かりやすさを
重視する形で発信（一
部英訳も発信）

「戦略アウトルック2026」
「崩れ行く『国際秩序』：
『不確実性時代』の戦略的
視座」をテーマに各分野・
地域の情勢を展望し、日本
としての対応策につき提言
（英訳版も発信）

「国問研戦略コメント」
ドイツ連邦議会選挙
（2025年4月）などにつ
いて、当研究所としての
考察と見解・日本への影
響等をタイムリーに発信
（一部は英訳も発信）

「最終報告書」
より専門的な内容で、
研究論文集や総合的提
言集を作成し、研究者
や政策担当者向けに発
信

最新情勢の分析・提言を、対象・タイミング・形式・内容に留意し日・英で発信。

《成果③》
外国シンクタンク・
有識者との連携と
国際世論の醸成

令和7年度 発展型総合事業 「アジア・大洋州地域における安全保障上のリスクの実態」



緊急公開ウェビナー「イラン・イスラエル軍事衝突ー地政学リスクと今後の見通し」の開催



JIIA Forum Webinar
「第2次トランプ政権下の欧中関係」

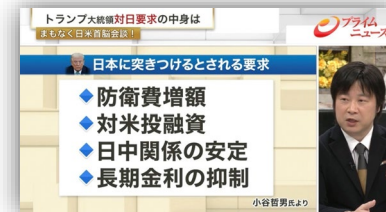


弊所にて台湾国策研究院文教基金会と日台戦略対話を実施



中国国民党青年団の訪問を迎え、意見交換を実施

ソウルにて韓国・統一研究院（KINU）との協議を実施



2026年3月19日BSフジ「プライムニュース」出演



2025年11月リトアニアのシンクタンクGSSC年次総会に吉田所長が登壇



2026年1月に米国のシンクタンク戦略国際問題研究所（CSIS）と「JIIA-CSIS第32回日米安保セミナー」を開催

トラック1.5対話として定着した「日米安保セミナー」のほか、米国のイラン核施設攻撃を受けた緊急公開ウェビナー開催。非公開での議論と公開セッションでの（聴衆との質疑を含めた）討論を組み合わせることで内外の世論を喚起

G7・安保理常任理事国に加えて、韓国・台湾・ベトナム・ポーランド・ノルウェー等との機関とも定期協議、アド・ホック対話を実施し日本の視角をインプット

メディア出演・寄稿と登壇：国内・海外のメディアを通じて数多く対外発信するとともに海外主要シンクタンクの行事にも招請参加しプレゼンスを発揮

グローバルに活躍する若手・女性人材、シンクタンク人材の育成の「舞台」としても活用し、発信能力の強化に貢献

当研究所の資産としてのシンクタンク／有識者ネットワークの活用とさらなる拡充、そしてネットワーク運営能力の向上を追求

海外主要シンクタンク・有識者との活発な意見交換・ウェビナー開催により
グローバルな知的ネットワークの構築と対外発信